

# 大阪市 HOPE ゾーン事業に基づく空堀地区のまちなみ景観に関する研究

現代システム科学域・環境システム学類・環境共生科学課程

栗山 りこ（下村ゼミ）

**1. 研究目的** 空堀は、昔ながらの路地や長屋、石畳の階段といった多様な歴史的・文化的資源を有する地域であり、まちづくりのテーマとして掲げる「お地蔵さんが見守る つながりを生かすまちなみ」という将来イメージのもとで情緒あるまちなみの継承が取り組まれてきた。本研究では、市民活動や行政施策の観点から本地区のまちづくりの特徴を解明し、さらに、「地域らしさ」を表す要素として位置づけられた地蔵の景観面における特徴を把握することにより、今後の空堀地区におけるまちづくりの方向性について考察した。

**2. 研究方法** 本研究では、大阪市の住宅施策「HOPE ゾーン事業」で規定された空堀地区の範囲を調査対象地区として設定する。まちづくり活動に関する調査では、大阪市の関連資料や既往研究等から整理し、具体的取り組みや活動主体の変遷などから特徴を捉えた。また、「お地蔵さんが見守る つながりを生かすまちなみ」がテーマに据えられたことの効果に注目しながら空堀における地蔵の位置づけを把握し、その地域資源としての価値を明らかにした。次いで、景観面の調査では、「空堀らしさ」を表すと考えられる地蔵空間に絞って観察した（H28.12）。まちづくりを行う市民団体「からほり倶楽部」が発行する「空堀お地蔵さんマップ」に記載された18箇所の地蔵を対象とし（図1）、踏査するとともに現地写真を撮影した。これらの地蔵空間を対象に、地蔵の構成要素、通りからの視認性、周辺空間の装置、街路空間における配置などの景観演出要素に着目して、「路地空間やオープンスペースの修景基準」を満たす5箇所を選出し、「空堀らしさ」について考察した。

**3. 空堀のまちづくりの変遷** 【市民団体によるまちづくり活動】2001年に「空堀商店街界限長屋再生プロジェクト（通称からほり倶楽部）」が設立され、市民によるまちづくりの気運が高まった。歴史的なまちなみや個性的な長屋活用を活かした地域活性化を活動目的とする当団体は、長屋の改装を安価に行える賃貸システムを構築して店舗や複合施設への再生を進めるとともに、まちの魅力をアピールするための地域振興イベントを多数手掛け、「歴史的まちなみ」という地域イメージを確立した。【行政による景観施策】2005年度から2013年度の間、大阪市による「HOPE ゾーン事業」の対象として当地区が選出された。同事業は地域の歴史・文化資源を核としたまちづくりを支援する住宅施策事業であり、建物の外壁などを昔風に改修す

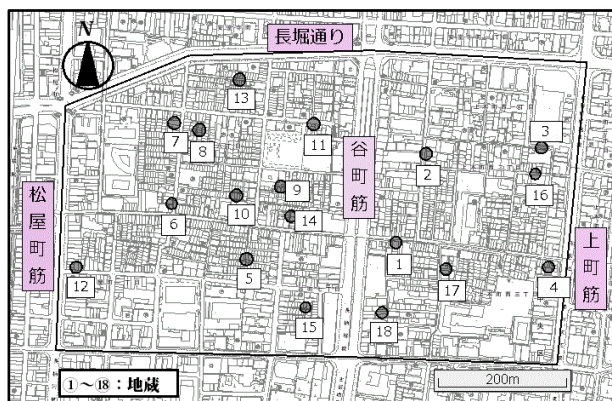


図1 空堀地区の範囲と調査対象とする地蔵の位置

る修景事業を進めて歴史性の継承に取り組んだ。この施策によってまちづくりのテーマが「お地蔵さんが見守る つながりを生かすまちなみ」と規定され、まちを見守る存在としての新しい価値が地蔵に付与されたことが、空堀を歴史的・文化的な特色を持つ地域としてより強く印象付けることに繋がった。

**4. 景観面での特徴** 修景基準との照合で選出した5地蔵空間の観察から「空堀らしい」景観の特徴を把握する(表1)。**【A】**商店街に面するマンションの敷地内に設置。商店街から地蔵の側面がフェンス越しに視認できる。道路と地蔵を隔てる接道は石の舗装がされている。**【B】**ビルと接道を隔てる公開空地の植栽帯上に設置。周辺にはベンチや街灯が整備されている。木造の囲いには地蔵を照らす蛍光灯や扁額などが設けられており、その両側に赤いのぼりが設置されている。地蔵の後方には囲いと同程度の高さの緑が植えられ、背景となるマンションを遮っている。**【C】**伝統的な軒庇が連なる町屋が並んだ路地の突き当りに正面を向いて設置。屋型の中ほどまでの高さの照明が設置され、後方にはブロック塀がある。**【D】**入口部がトンネル形状になった路地を抜けた広場に設置。路地から広場にかけて石畳の舗装が続き、その上に植栽帯やタイル貼りの井戸が設置されている。**【E】**車が通れる広い道路に面して設置。外壁面より後方にあるため、正面に近づかなければ視認できない。平側が正面となった切妻型の屋型は隣り合うブロック塀の高さと揃っており、景観に連続性がある。

**5. まとめ** 古くから住民に親しまれてきた地蔵がその姿を保つことで、伝統的な暮らしや生活文化といった昔ながらの情緒を今に伝える媒体としての役割を果たしている。また、「お地蔵さんが見守るまちなみ」というテーマに沿ったまちづくりを行うには建物の外観や街路の装置なども地蔵との調和を図る工夫が必要であるため、地蔵が示す空堀地区の歴史性や文化性がまちなみに反映されている。今後の空堀地区においては、まちを見守り続ける存在として新しい価値を持った地蔵を活かし、「人々を優しく見守るお地蔵さんを有する地域」という独自のイメージに沿った道路空間構造や建築意匠・素材の保全や、まちづくり活動を支える担い手の継承が課題と言える。

表1 HOPEゾーン事業による修景基準を満たす地蔵設置空間の選出

No.	名称	構成要素			通りでの視認性	周辺空間の装置		街路での配置	周辺施設	地蔵
		屋型	土台	囲い		舗装	植栽			
1	延命地蔵尊	切妻型	○	×	可能	敷石	○	マンション敷地	マンション等	・A
2	地蔵尊	切妻型	○	×	一部不可/電柱	アスファルト	×	道路の路肩	ビル、マンション等	
3	北向地蔵尊	切妻型	○	切妻屋根	可能	アスファルト	○	公開空地植栽帯	ビル、変電所等	・B
4	地蔵尊	四角形	×	片流れ	不可	アスファルト	×	路地奥の路肩	町屋等住宅	
5	地蔵尊	切妻型	○	×	可能	アスファルト	×	路地の突き当り	町屋等住宅	
6	水呑地蔵尊	切妻型	○	×	一部不可	アスファルト	×	マンション敷地	マンション等	
7	矢田地蔵尊	切妻型	○	×	一部不可	アスファルト	×	路地、住宅の間	住宅等	
8	日限地蔵尊	切妻型	○	×	可能	アスファルト	×	路地の突き当り	町屋等住宅	・C
9	延命地蔵尊	切妻型	×	×	可能	石畳	○	路地奥の広場	店舗、住宅等	・D
10	地蔵尊	切妻型	○	×	可能	コンクリート	×	住宅の軒下	町屋等住宅	
11	延命地蔵尊	切妻型	○	片流れ	一部不可	アスファルト	○	道路の路肩	幼稚園、住宅等	・E
12	金剛地蔵尊	切妻型	○	×	可能	アスファルト	×	道路の路肩	マンション等	
13	日除地蔵尊	切妻型	○	片流れ	不可	コンクリート	×	路地奥の路肩	町屋等住宅	
14	地蔵尊	片流れ	×	陸屋根	不可	コンクリート	×	路地奥の路肩	住宅等	
15	地蔵尊	四角形	×	四角形	可能	アスファルト	×	路地奥町屋軒下	町屋等住宅	
16	地蔵尊	切妻型	○	陸屋根	不可/フェンス	アスファルト	×	マンション駐車場	マンション等	
17	地蔵尊	切妻型	○	×	一部不可	コンクリート	×	路地、住宅の間	住宅等	
18	地蔵尊	切妻型	○	×	一部不可/電柱	アスファルト	○	路地の突き当り	工場、住宅等	

A~Eは修景基準を満たす地蔵空間